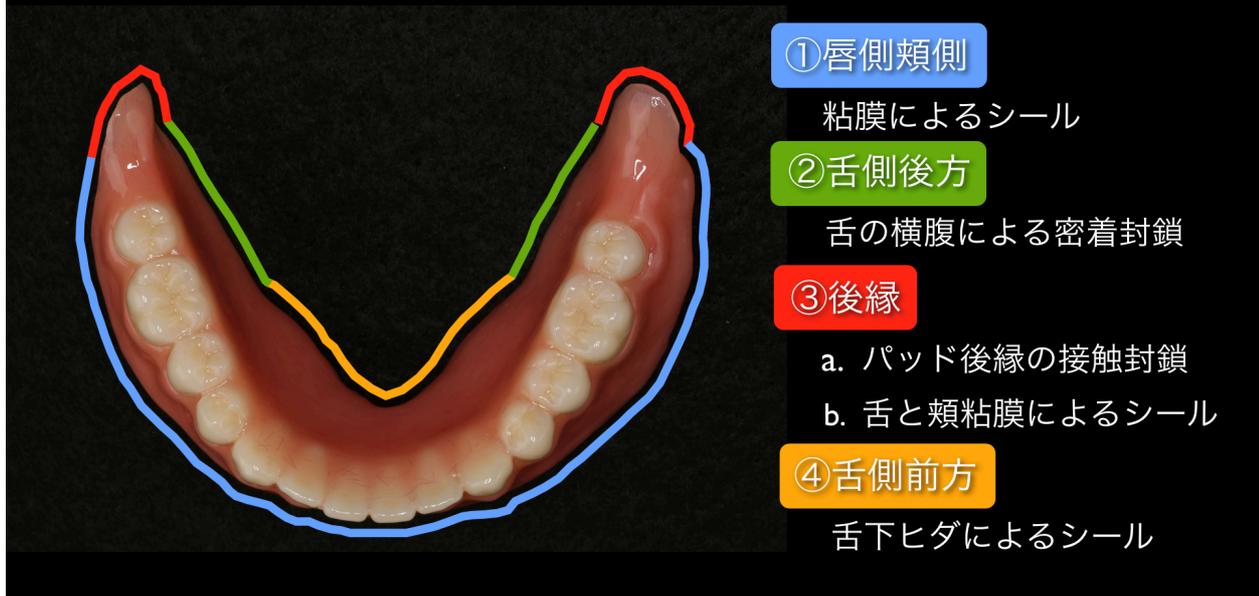




Sato Dental La France office
Katsushi Sato

下顎総義歯吸着マニュアル

下顎総義歯全周の辺縁封鎖（閉口時）



①唇側頬側

粘膜によるシール

②舌側後方

舌の横腹による密着封鎖

③後縁

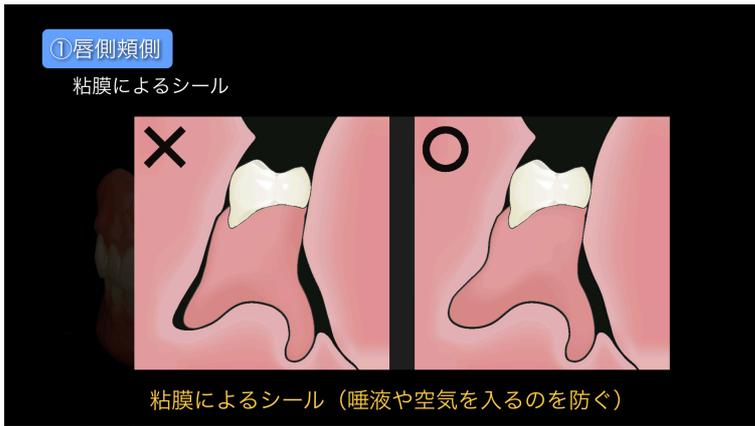
a. パッド後縁の接触封鎖

b. 舌と頬粘膜によるシール

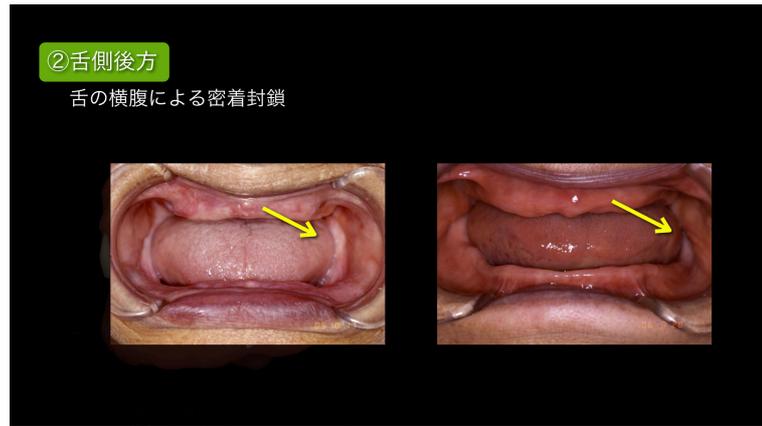
④舌側前方

舌下ヒダによるシール

下顎総義歯を口腔粘膜で全周辺縁封鎖することにより、吸着が可能となる。吸盤と同じ原理である。



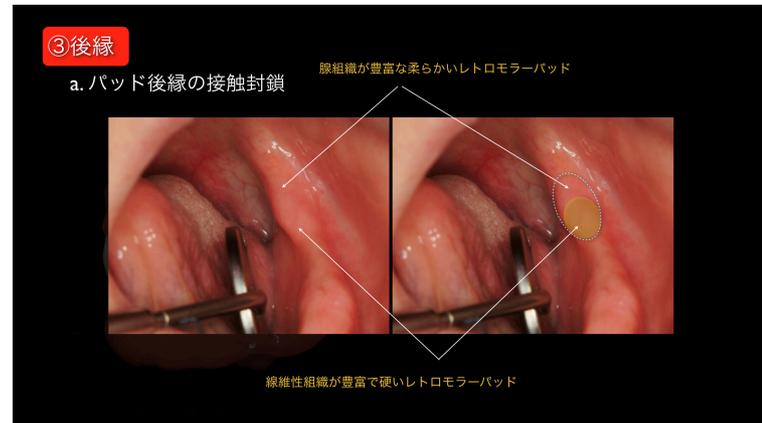
床周辺より水や唾液等の液体・気体等が床内面に入るのを防ぐため、床辺縁にて可動粘膜をわずかに押し広げてシールする。



一部の舌の運動時を除き、通常舌の横腹とレトロモラーパッド舌側下方顎堤は接している。そこに床を挿入する。

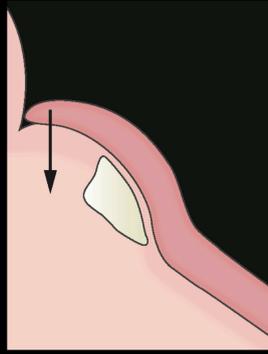


舌の横腹によって、義歯床舌側研磨面を押しえ込むことにより、封鎖機構が保たれる。



レトロモラーパッド後縁の接触封鎖。レトロモラーパッドの前方は線維性組織が豊富で硬い。後方は腺組織が豊富で柔らかい。

床縁を柔らかい組織に設定する事により沈み込みによるシールを高める。



③後縁

b. 舌と頬粘膜によるシール



開口

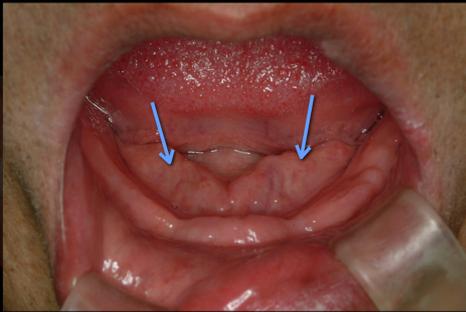
閉口

レトロモラーパッド全体を床で覆い、床後縁を柔らかい組織で終わるようにする。咬合等による床後縁の沈み込みによるシールを高める。

舌と頬粘膜によるシール。開口すると頬粘膜と舌は離れるが、閉口すると頬粘膜と舌はレトロモラーパッド上で接触し、後縁を封鎖する。

④舌側前方

舌下ヒダによるシール



舌下ヒダによるシール。このスポンジ状の柔らかい組織が豊富な症例ほど強い封鎖が期待できる。



一カ所でも辺縁漏洩部があれば吸着が完成しない

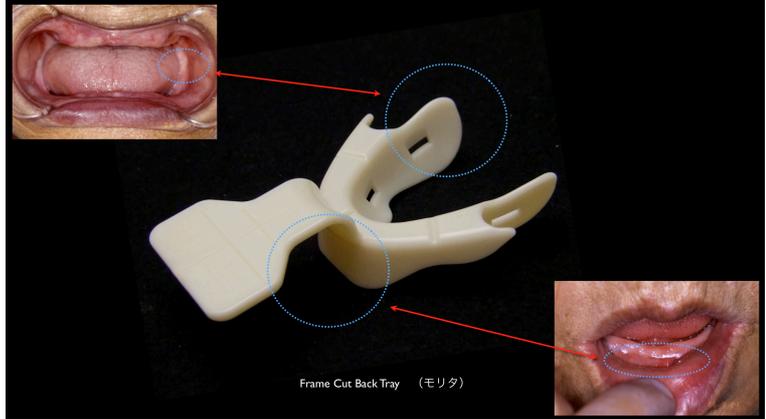
もし一カ所でも辺縁漏洩部があれば吸着しない。

概形印象

下顎安静位における
素直な口腔内空間を
印象する（閉口印象）

粘膜と接しやすい

辺縁封鎖しやすい

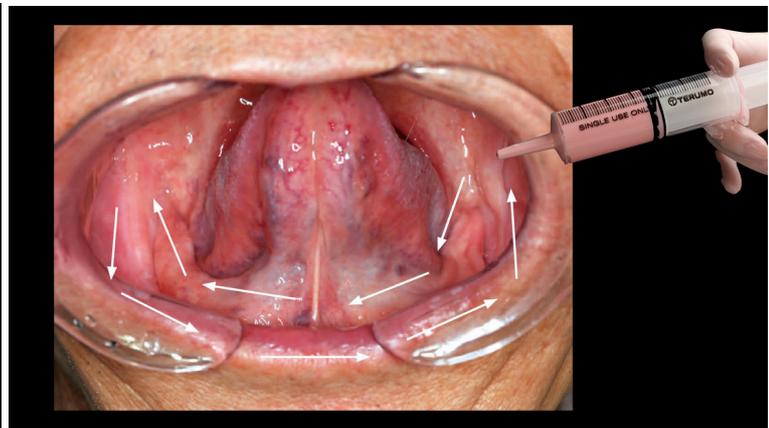


吸着印象法における概形印象の目的。

接している舌の横腹とレトロモラーパッド舌側下方相当部との間及び下口唇舌側粘膜面と下顎前歯部顎堤唇面との間に印象材を入れるため、パーテーションを設置したトレーをもちいる。



トレーを試適し、上口唇の位置をトレーの柄にマジックで印をつけておく。



Frame Cut Back Tray（モリタ）は、MとLの2サイズがある。

前歯部顎堤唇面にトレー前縁を位置させた時に、トレー後縁が、舌の横腹とレトロモラーパッド舌側下方相当部との間に来るようにサイズを選択し、試適する。

流動性の良いアルジネート印象材をシリンジ（テルモシリンジカテーテルチップ型50ml SS-50CZ）で注入する。

片側のパッドより開始し、舌下を通り、反対側のパッドに到達したら、頬側・唇側・頬側を通り、元に位置に戻る。



二重印象法

- ① 1次アルジネート印象に気泡が入りづらくするため、固めの2次アルジネート印象をトレーに盛り、わずかに圧力をかける。
- ② 石膏を注いだ時の変形に対応する。



トレーに流動性の低いアルジネート印象材を盛る。フレームの存在しないレトロモラーパッド部にも盛り上げる。

使用する2種類のアルジネート印象材。
高流動性：アローマファイン（GC）を水を20%増で練和
低流動性：ハイテクニコール（GC）を水を20%減で練和



アルジネート印象材を盛ったトレーで、片側の口角を横に引っ張るように押しながら、90°回転させるようにして口腔内に挿入する。



前歯部顎提にトレー前方部を押し付ける。トレー後方部はまだ浮かせておく。

Akkunbee wait 7 seconds Pressing



舌の吐出

戻して7秒待つ

臼歯部を押し

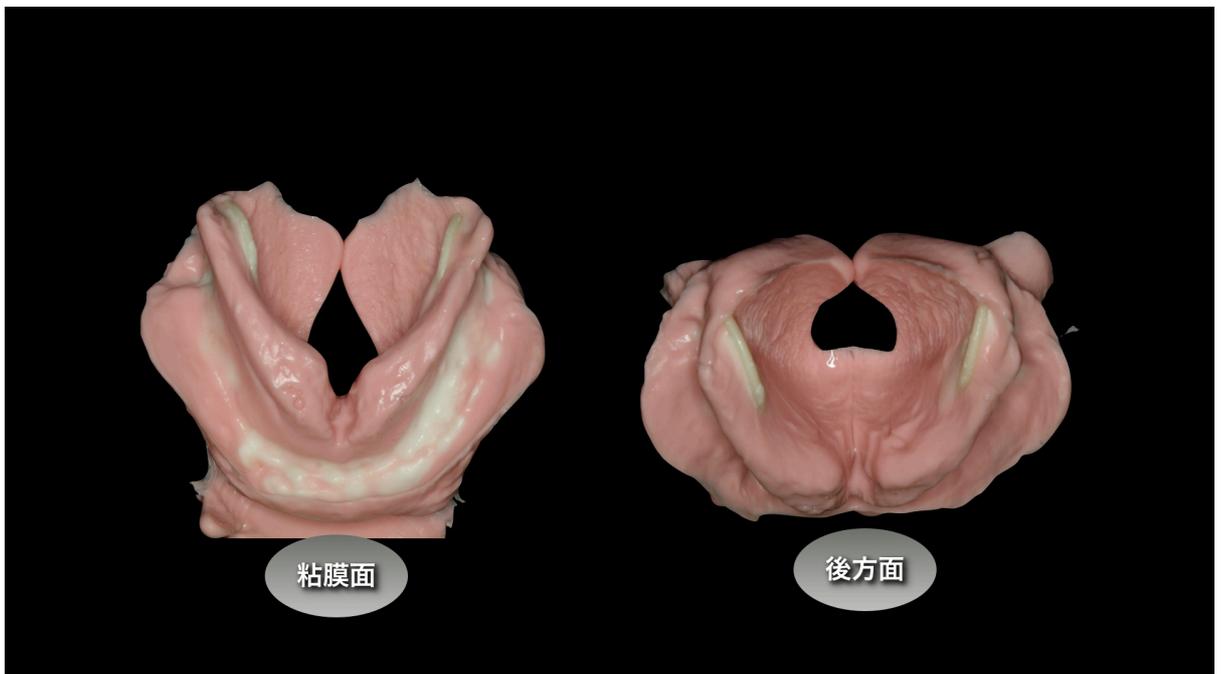
この状態で舌を吐出してもらおう。(アッカンベー)
舌を戻して、口腔底の動きが安定するまで7秒間待つ。
その後、トレーの臼歯部を押ししていく。



親指で上口唇を跳ね上げながら、患者にゆっくり閉口してもらおう。



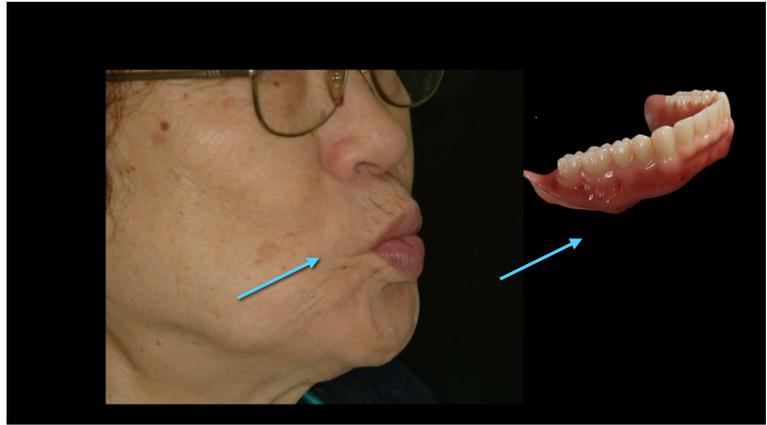
印象材の重みで頬粘膜が広がってしまうのを補正するために、頬を撫で上げる。
試適時にトレーの柄につけたマーキングを参照しながら、トレーの位置の微調整を行う。
閉口状態のまま印象材の硬化を待つ。



パーテーション付きトレーを用いて採得した下顎安静位における素直な口腔内空間相当の印象。
流動性の高い印象材を、流動性の低い印象材でわずかの押す事により、
気泡が少ない精度の良い印象体となる。
また、流動性が低く硬い印象材が、石膏の重みに対する印象変形にも対抗する。

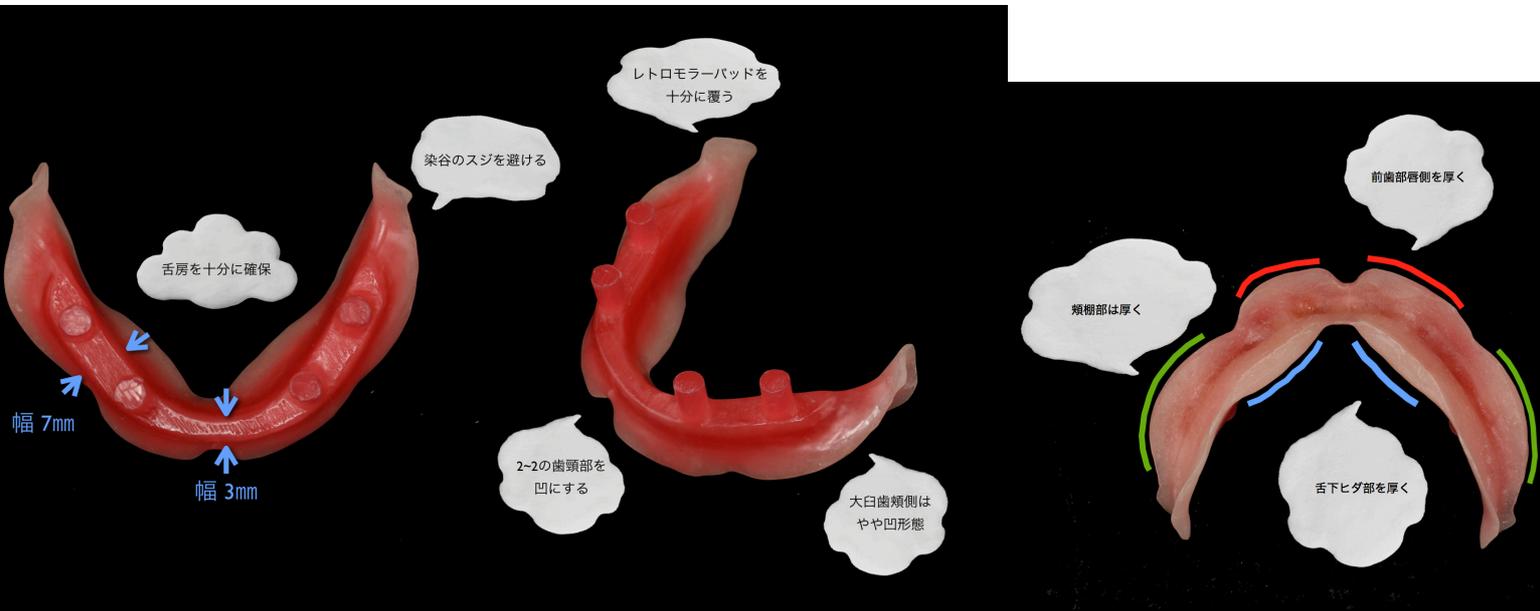
精密印象

完成義歯が入った状態の口腔内空間と採る

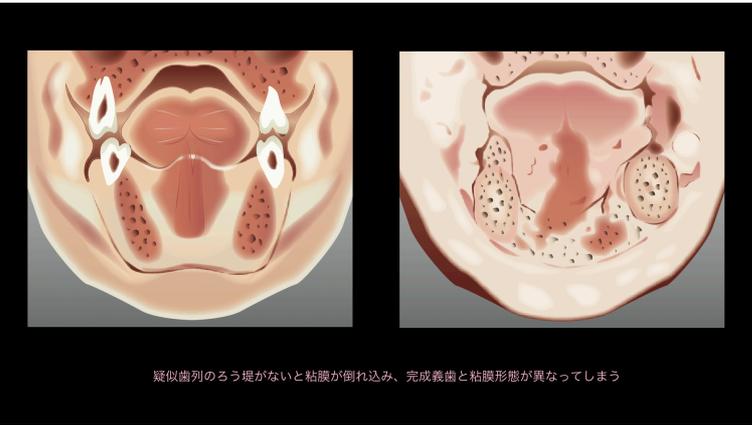


吸着印象法における精密印象の目的。

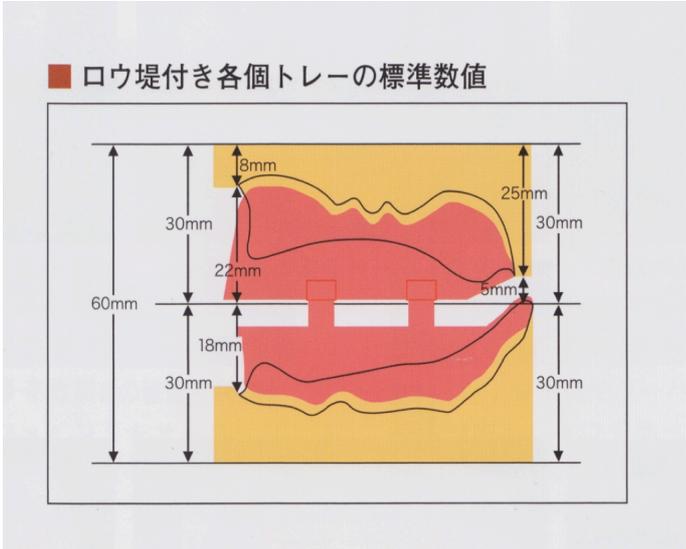
概形印象で義歯床辺縁を完成させると、下顎安静位では、動かず邪魔になりにくく具合が良い。しかし、日常生活における会話や食事等の機能運動時には、口腔粘膜に押されて義歯が動かされる可能性がある。



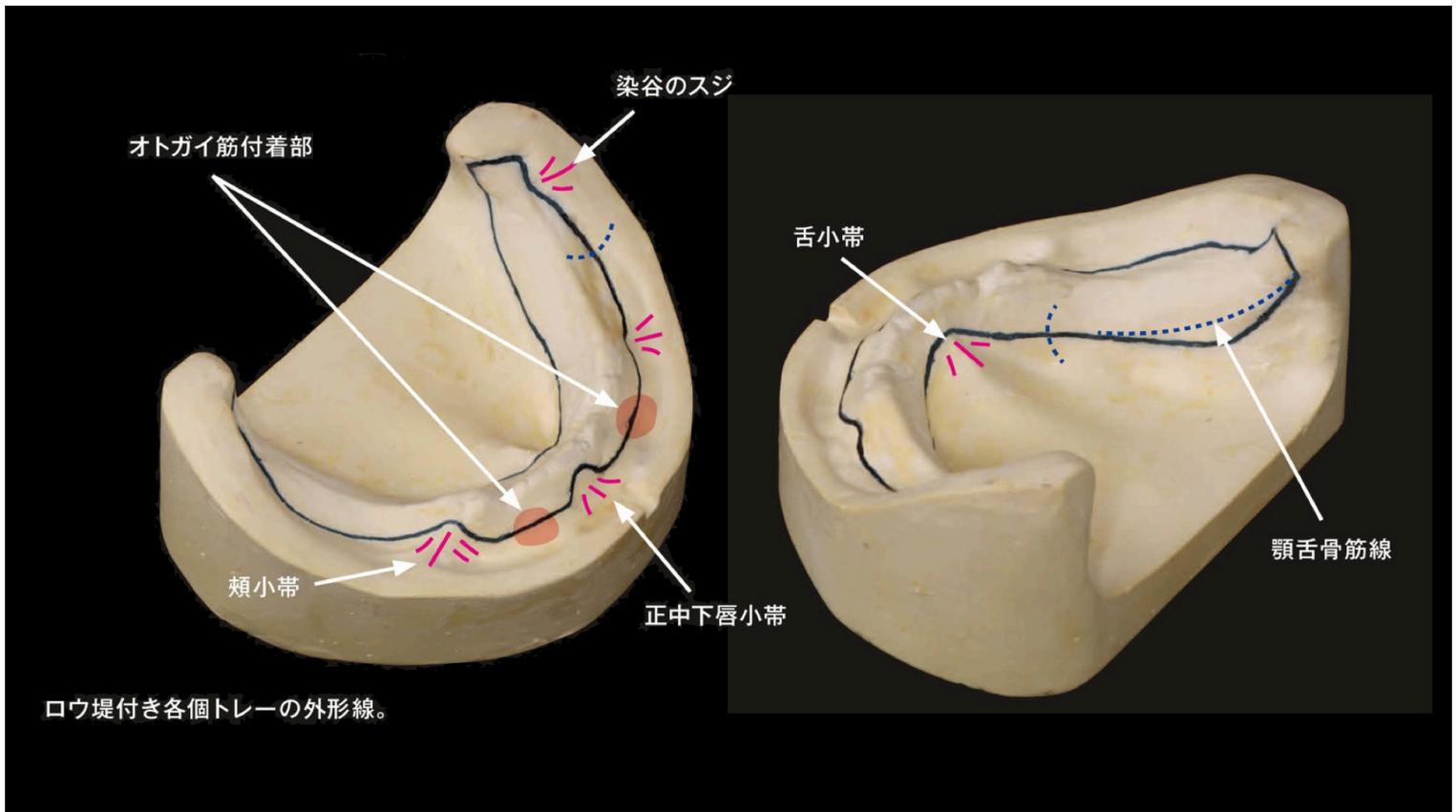
ろう堤に付与した4点の突起を軟化して、咬合採得を行う。その後に閉口印象を行う。この突起は通常の高径より軟化する分2mm高く作る。床は部分的に1~2mm程度の厚さを付与する。



歯列がないと、舌と頬粘膜が顎堤側に倒れ込むので、疑似歯列であるろう堤をたてる必要がある。



阿部二郎：術者のミスを少なくする咬合床&吸着を可能にする印象用各個トレー。GC, 東京.2007. : 40.



ろう堤付き各個トレーの外形線。

頬側：頬小帯および染谷のスジを避けて、歯肉頬移行部最下点。

唇側：正中下唇小帯を避けて、歯肉境移行部から2mm上。オトガイ筋附着部が見えればリリース。

舌側前方：舌小帯を避けて、最凸部。

顎舌骨筋線部：顎舌骨筋線を2～3mm超える。レトロモラーパッドは全部覆う。



ロウ堤に付与した4点の突起を、熱したスパチュラ等で軟化して、咬合採得をおこなう。



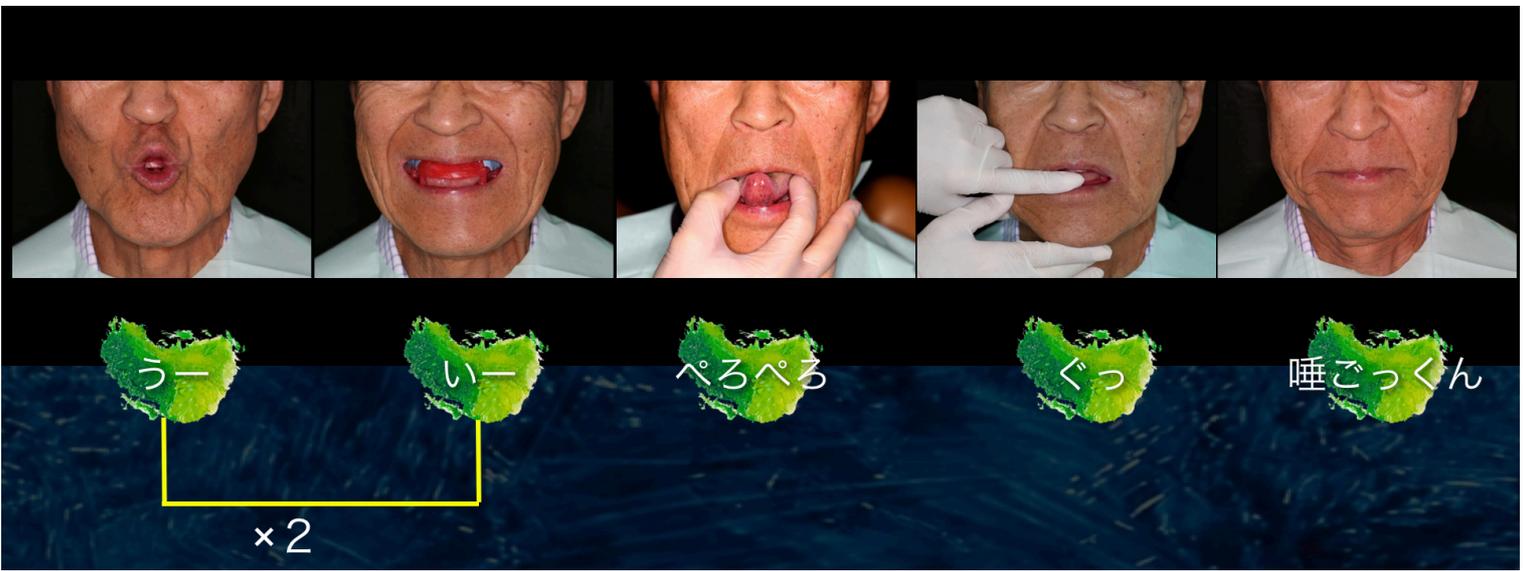
機能印象材・ソフトライナー（GC）にて閉口機能印象をおこなう。

粉液比は、コシを固めにするため、「10：7」とする。

接着剤は不要。

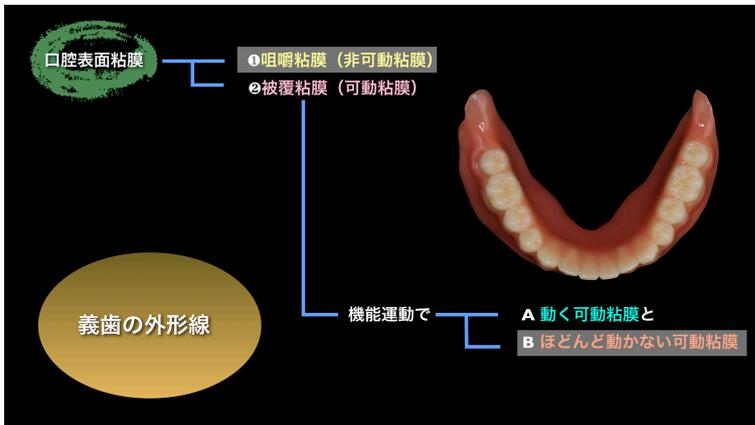
べたつきをとるため、ぬるま湯につけてから口腔内に運ぶ。

粉：液=10：7

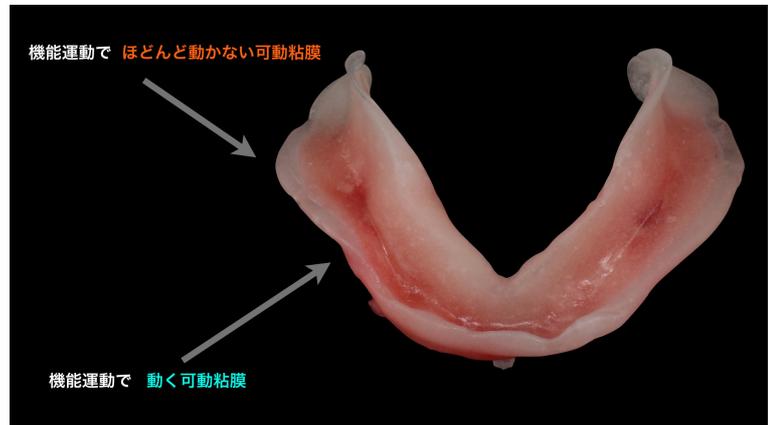


5つの動作をおこない閉口機能印象をおこなう。

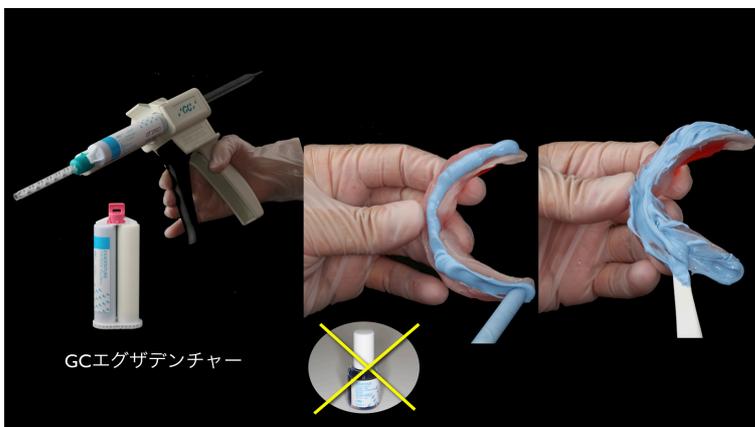
この5動作によって、日常における口腔機能運動の代償とする。2種類の印象剤により2回おこなう。



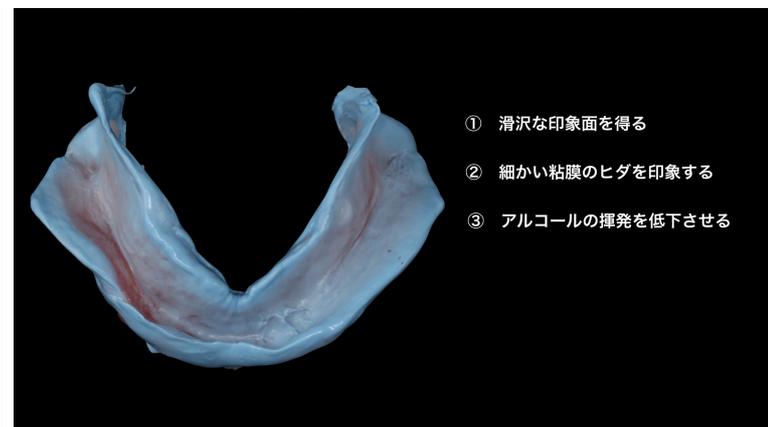
義歯の外形線は、咀嚼粘膜と、被覆粘膜のうちで機能運動してもほとんど動かない粘膜の両部分。



機能運動時に動く粘膜の動きを排除して残った形態となる。



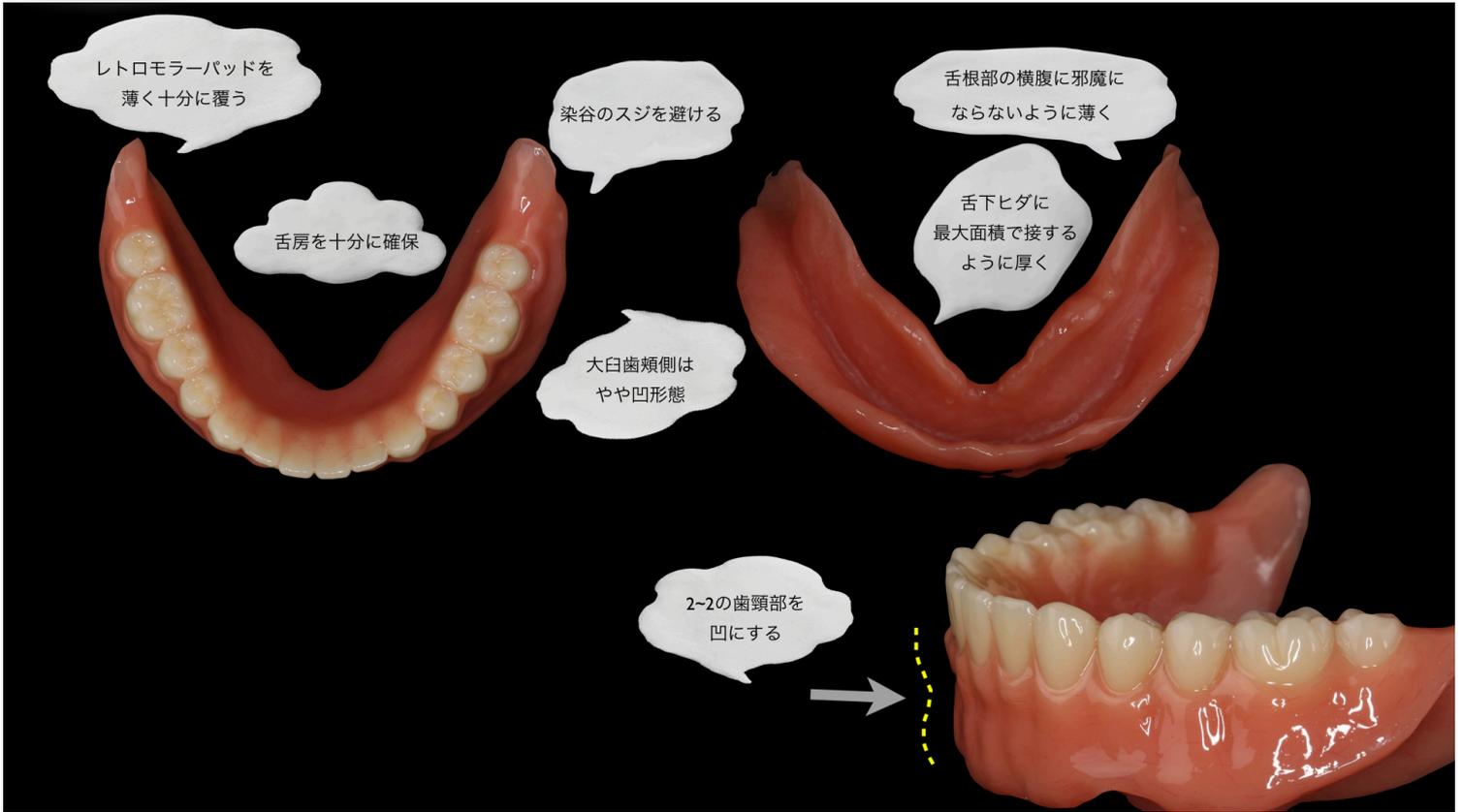
続いて流動性の高いシリコン印象材・エグザデンチャー（GC）にて閉口機能印象をもう一度おこない、ウォッシュ・インプレッションとする。接着剤は不要。



シリコン印象材でウォッシュすることで、表面が滑沢になり精度が向上し、細かい粘膜のヒダが採得でき、機能印象材のアルコール成分の揮発を抑え経時的印象変形の抑制に働く。

しかし、変形を抑えることはできないのでなるべく早く、遅くとも30分以内には石膏をつぐようにしたい。

吸着義歯床形態

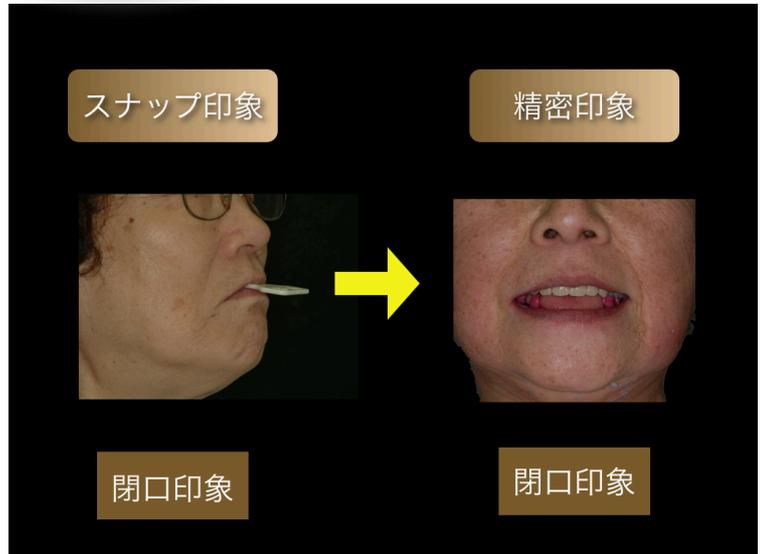


姿勢と吸着



上を向けば向く程、舌は後退し、レトロモラーパッド上の舌と頬粘膜は開いてくる。それに同調して辺縁封鎖が困難となってくる。したがって吸着がしにくくなる。吸着が最も必要である咀嚼時と会話時にとりうる、自然頭位からそれよりややうつむいた頭位で吸着ができれば十分と考えている。

成功のポイント



スナップ印象および精密印象の両方とも閉口印象とするのが成功のポイントである。